

広島でスマートクルーズアカデミー10周年イベントに参加 ディクルーズ船「シースピカ」に初乗船

2022.11.30 池田良穂

天気予報とは違って、29日に広島に到着するまで良い天気が続きました。

さて、広島での目的はスマート・クルーズ・アカデミーの10周年イベントに参列することでした。同アカデミーは、本学会会長でもある、大阪大学国際公共政策研究科の赤井伸郎教授が中心となって設立した組織で、クルーズを通して、大学生の論理的思考向上の場とクルーズ振興に向けた新たなマーケットニーズ構築の場を提供することを目的としています。

具体的には、洋上という素晴らしい環境のもとで、国際関係や地域発展についての社会課題について議論し、船内および寄港地で国際感覚のより一段の向上を図ることと、クルーズを体験して若い世代からの視点で、将来のクルーズについて考え、日本の港湾戦略、寄港地の分析、日本の観光の在り方を議論し、自由に事業・政策提案をすることを継続的に行っています。

これまで実施されたアカデミーは、

- 2012.9 レジェンド・オブ・ザ・シーズ 神戸～上海間 5日間クルーズ
- 2013.7 サン・プリンセス 神戸～釜山～日本海 5日間クルーズ
- 2013.9 ボイジャー・オブ・ザ・シーズ 天津～東京 7日間クルーズ
- 2014.5 ボイジャー・オブ・ザ・シーズ 神戸～台湾～神戸 7日間クルーズ
- 2014.9 サン・プリンセス 小樽～釜山～神戸 4日間クルーズ
- 2015.4 ボイジャー・オブ・ザ・シーズ 横浜～濟州島～横浜 7日間クルーズ
- 2015.6 ダイヤモンド・プリンセス 神戸～釜山～神戸 4日間クルーズ
- 2016.5 ボイジャー・オブ・ザ・シーズ 横浜～上海 5日間クルーズ
- 2016.8 ダイヤモンド・プリンセス 横浜～釜山～横浜 8日間クルーズ
- 2016.9 コスタ・ビクトリア 金沢～釜山～福岡 4日間クルーズ
- 2017.5 コスタ・ネオロマンチカ 舞鶴～釜山～舞鶴 6日間クルーズ
- 2017.9 ダイヤモンド・プリンセス 横浜～釜山～横浜 6日間クルーズ
- 2017.11 スーパースター・バーゴ 大阪～釜山～横浜 8日間クルーズ
- 2018.5 コスタ・ネオロマンチカ 神戸～釜山～神戸 8日間クルーズ
- 2018.11 MSC スブレンディダ 横浜～上海 4日間クルーズ
- 2019.6 MSC スブレンディダ 横浜～上海 4日間クルーズ
- 2019.9 セレブリティ・ミレニアム 広島～金沢 5日間クルーズ

の17回に及び、参加者累積は573名に達したといわれています。2020年からの新型コロナ禍で外航クルーズが途絶えた期間には、以下の国内フェリーの乗船企画を実施しています。

- 2022.3 フェリーきょうと 大阪南港～新門司～大阪南港
- 2022.5 フェリーたかちほ 神戸～宮崎～神戸

10周年記念式典

11月28日夕刻から、10周年記念式典がグランドプリンスホテル広島の宴会場で開催され、スマート・クルーズ・アカデミーと全国クルーズ活性化会議から53名の参加がありました。

最初に赤井教授による「スマート・クルーズ・アカデミーの挑戦—10年の軌跡—」と題したスピーチがありました。2011年に港湾局がクルーズの勉強会を立ち上げ、それがベースとなり「全国クルーズ活性化会議」が発足し、メール

での情報発信などを始めたとのことでした。そして2012年に、ロイヤル・カリビアン日本の総代理店ミキツリストの上村博英氏と相談して、洋上で大学生を教育するアカデミーの設立を構想し、日本発着の「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」のクルーズで第1回アカデミーを実行したそうです。参加した学生がクルーズ振興に関する提言をまとめ、またクルーズアカデミー

に参加して人生が変わったという学生までできて嬉しかったと述べられました。

続いて、堀田治港湾局長からのお祝いのビデオメッセージ、上村氏からの電話メッセージがあり、続いて堀川悟 JCCI 会長(カーニバルジャパン社長)、上村多恵子関西経済同友会常任監事からの祝辞がありました。

乾杯は、高田昌行元港湾局長によってなされ、「クルーズは夢と希望を運ぶ」、思いをひとつにしてクルーズを盛り上げていこうとのあいさつの後、高らかに乾杯しました。

糸川雄介 JICC 副会長(シルバークルーズ日本・韓国支社長)から「クルーズ 10 年と、コロナと共生した新たなステージのクルーズへの挑戦」と題するゲストスピーチがありました。

これらの詳細は、来年 3 月発行予定の Cruise & Ferry 第 34 号で掲載の予定です。



糸川 JICC 副会長による講演



式典の最後には赤井先生への記念品贈呈がありました。

シースピカのクルーズ

翌日、瀬戸内海汽船のデイクルーズ船「シースピカ」で記念研修クルーズが行われました。テーマは「クルーズシップで学ぶ瀬戸内の魅力」。コースは、同船のスタンダードの観光ルートとは違い、広島港内のクルーズ船埠頭を海上から視察し、続いて呉港に寄港して港内を視察、音戸の瀬戸を通過して御手洗、蘭島とも呼ばれる下蒲刈島で下船して現地の観光資源の視察を行いました。

また船上では、航海中に、船内シンポジウム「瀬戸内の魅力を学ぶ」が開催され、仁田一郎瀬戸内海汽船社長による「SEA SPICA の挑戦」、小林敦せとうちクルーズ総支配人から「ガンツウによる瀬戸内海の魅力発信への挑戦」の講演があり、さらに呉市の芳明市長の歓迎挨拶がありました。

生憎の低気圧の前線通過もあり、航海中に風雨が激しい時間帯もありましたが、さすがに瀬戸内海の海上は静かで、仁田瀬戸内海社

長のあいさつで「天気の良い時も瀬戸内海はまるで墨絵のような素敵な顔を見せる」とあったように、瀬戸内海に浮かぶ島々の山に雲がたなびく美しい光景を堪能できました。

16 時前にホテル棧橋に到着、さらに宇品にまで行って研修クルーズは終わりました。



ホテル前の棧橋に到着した「シースピカ」



1階のインドアキャビン



2階のアウトドアスペース。雨も風も防げて、悪天候にもかかわらず、航海中ずっとここで過ごすことができました。



広島宇品に寄り、ここからさらに参加者がたくさん乗船しました。



広島港の客船岸壁です。



参加者に港湾関係者が多く、広島港内視察時には国土交通省の「りゅうせい」が伴走してくれました。



自動車メーカーのマツダの車を運ぶための PCC「デイグニティ・エース」が停泊していました。



高速旅客船「せと」と反航しました。



呉まで行く途中、海上風力発電装置の設置船「Blue Wind」を、ジャッキアップした状態で見ることができて感激でした。



JMUの呉造船所(元 IHI 呉工場)では ONE の大型コンテナ船が建造中でした。たぶんツインアイランド船で、まだブリッジが載っていない状態のようです。



呉から乗船した新原呉市長から歓迎の挨拶がありました。(船内テレビ画面)



音戸の瀬戸を通過した所で瀬戸内海汽船の広島/呉～松山航路のカーフェリー「シーバセオ 2」と反航しました。



船は御手洗に向けてとびしま街道の橋をくぐります。



御手洗に到着する直前に小長港に向かうカーフェリー「第5 かんおん」と遭遇しました。



シースピカの最後部デッキは、ウェークを見ながらの爽快な船旅が楽しめます。



御手洗の棧橋に停泊した「シースピカ」です。



御手洗停泊時の参加者の記念撮影です。



御手洗の観光地図です。かつての汐待・風待ちの港です。



船上で「ガンツウ」の瀬戸内クルーズについて紹介する、せとうちクルーズの小林総支配人です。(船内テレビ画面)



蘭島(下蒲刈島)の浮棧橋に到着すると地元の方々が、雨の中、歓迎してしてくれました。



雨の中、幻想的な雲のたなびく風景が続きました。



再び音戸の瀬戸を通過して、広島に向かいました。音戸の瀬戸の渡し船は、昨年、廃業したとの説明がありました。



呉沖では自衛艦と相次いで遭遇しました。



ホテル前で参加者の一部が下船して、船は最終港の広島・宇品港に向かいました。

ホテルからのシップウォッチング

宿泊したグランドプリンスホテル広島では、部屋の窓からのシップウォッチングを楽しみました。幸い 30 日の朝には雨も上がり、部屋からは音戸の瀬戸あたりまですかに見えるようになりました。ホテルの予約時には、しっかりと、海側の部屋を指定しました。



瀬戸



祥光



海上タクシー「くれないⅢ」



第八きりくし



おやしお



和加



祥洋丸



旭洋丸



反航する「第八きりくし」と「第十きりくし」



マツダの岸壁では国内航路 PCC「第 3 東洋丸」(左)と、輸出車を運ぶ外航 PCC「ビクトリアス・エース」が並んで荷役をしていました。